

気象学者のための英語 (5)*

木原 研 三**

ATS は、150°W 付近の赤道上空やく 36,000km に地球に対して静止している。この衛星から撮影した写真は、太平洋のほとんど全域をカバーしていて、中間スケール以上の気象じょう乱に対応する雲分布をよく示している。ある瞬間の雲分布であるという点で、現在アメリカ環境科学局で多くの軌道の写真を集めて作っているエッサ3号や5号の合成写真とは違った価値がある。

最初の文を名古屋 S 氏はこう訳した。

ATS is stopping relatively to the earth at 3,000m aloft on her equator at near 150 degrees of her west longitude. まず ATS に定冠詞が必要と思う。the ATS satellite としても定冠詞がいる。is stopping は不自然。stop を「滞在する」の意に用いるならば He is stopping at the Imperial Hotel. (帝国ホテルに滞在中) のように進行形にしてもよいが、stop の普通の意味は運動状態から停止状態に移る瞬間的なできごとである。従って進行形にすると「止まりかかっている」の意になる。静止の状態を表すには be stationary を使うべきである。高さを表すには多くの投稿者の at an altitude of がよい。上の訳文中の 3,600m は不注意。それに earth を受ける her はどうか。「母なる大地」と見て earth を女性で受けるのは poetic な語法である。「150°W」は書き直さず、このままでよい。full に書くとしても 150° west longitude で of は不要。「付近」に対する上の at near は near だけでよい。「150°W 付近の赤道上空」をそのまま訳せば around 150°W over the equator (航空気象台 A 氏) のようになるが、どうもすっきりしない。「150°W と赤道とが交差する所の上空」だからというので京都 A 氏は nearly 36,000km over the equator intersecting about 150° west longitude, 仙台 Y 氏は about 36,000km above the around of cross point of the equator and the 150°W meridian とした。A 氏は intersecting の使い方がまずい。「150°W を intersect する赤道」は「150°W と赤道との交差点」とは違う。nearly 36,000km above where the equator intersects the 150°W meridian. としたい。「上空」は above でも

over でも表わされるが、above のほうが高低の感じが強い。そのためか高さが数字で示されているときには above が普通。上の S 氏訳で on her equator と on を使っているが、これは意味をなさない。on は同じ「上」でも付着している場合である。on には高低よりも付着の意味のほうが本質的であると言える。「天井にハエがとまっている」は A fly is on the ceiling. であるが、on が高低を表わしてはこの文はおかしなことになる。Y 氏の the around と cross point は英語ではない。

「この衛星から……」の文は予報部 N 氏の訳文を示そう。A クラスの訳文である。The picture taken from the satellite covers almost the whole area of the Pacific Ocean and clearly shows the cloud distribution which corresponds to the meteorological disturbances larger than meso-scale. 文法的にはほとんど問題のない訳文であるが、例によってこまかく検討してみる。picture はこれでもよいが複数にするほうが自然であろう。taken のあとは from でも by でも可能。ブリタニカのあちらこちらを探すと photograph taken by the U.S. S.R. space satellite Lunik 3/ photographed by Ranger 7/ photographs taken from Ranger 7 のような例がある。「撮影」と言っても電波を送って来るだけだから pictures sent back [transmitted] from this satellite とすることもできる。「写真」を複数にしたのと同じ理由で the cloud distribution も cloud distributions (the を取る) としたい。the meteorological distributions の the も不要。

次に「ある瞬間の雲分布…」という表現はおかしい、すべて satellite pictures は瞬間的なもので ATS のが価値があるのは広範囲を同時に cover するからだ、と予報部 N 氏は言われる。専門外のことでよくわからな

* English for the Meteorologist (5)

** K. Kihara お茶の水女子大学 (英語学担当)

が、合成写真だともとの写真が全部完全に同一瞬間に写されているということは不可能であるが、ATS 写真では1枚の写真で瞬間的に全域をカバーできるので、その点が合成写真よりもすぐれているということであろう。原文はちょっと舌足らずの感があるが素直に読めばそうとれる。いずれにせよ They show instantaneous distribution of clouds over the globe. (海洋気象台 I 氏) ではまずい (それに over the globe は「地球全体にわたって」と取られそうだ)。「ある瞬間における分布」は the distribution at a particular moment であって instantaneous distribution ではない。instantaneous velocity (瞬間風速)/instantaneous exposure (瞬間露出) のような用法と比較すると instantaneous と distribution とが結びつかないということがわかると思う。

「～という点で」は because of (仙台 Y 氏, ただしこの句の後には名詞が必要。Y 氏は Because of the photograph shows... と節を使っているがこれは誤り), as regards that (横浜 T 氏, as regards は「～に関して」の意で、やはり後に名詞が来る, that とは結びつかない), in the respect that (予報部 N 氏, これも普通でない) などがあつたが一番普通の in that を使った人は無かった。Man differs from the other animals in that he can reason and speak. のように用いる。これを使えば They have different values from ... in that each of them singly presents an overall picture of cloud distribution at a particular moment. となる。この that 以下を予報部 N 氏は provide us [ここに with が必要] the pictures of simultaneous cloud distributions としたが、この simultaneous の使い方は無理ではないか。

「軌道の写真」「エッサ 3 号や 5 号の写真」に出る「の」は機械的に of としないで一工夫している人が多かったのはよい。通報課 K 氏の composite pictures obtained through ESSA III and V はよいが pictures on their several orbits は pictures taken on... とする。前置詞は from (京都 A 氏) でなく on が適当。ともかく The composite photographs of ESSA 3 or 5 (海洋気象部 I 氏) としたのでは ESSA 3 と 5 とを写した写真ととられそうである。航空気象台 A 氏は composed of ESSA-3 and ESSA-5 photographs としたのはうまいが、その後の at various orbits はまずい。orbit は長い線だから at と結びつかない。taken on their journey along various orbits としたい。ただし原文の「多くの」が「写真」にかかるのだったら少し違った訳になる。

以上を、なるべく今までのと別の表現を使って訳すと The ATS remains stationary relative to the earth at a height of about 36,000km above the equator where it intersects the 150°W meridian. The photographs transmitted from this satellite, which practically cover the whole of the Pacific Ocean, give pretty faithful pictures of cloud distributions corresponding to meteorological disturbances larger than meso-scale. In including the cloud distribution of the whole relevant area in one shot, these photographs differ in value from the composite ones the U.S. Environmental Science Services Administration has been making out of the large number of photographs obtained by ESSA III and IV in their progress along their orbits.

以下、個々の訳文について注意すべき点をあげる。

横浜 T 氏は基礎的な力が足りない。36,000 Kiro meters とは何事か、wholewide は英語ではない。in a moment は「ある瞬間における」ではなく「すぐに」の意。

仙台 Y 氏: by Environmental Science Services Administration of U.S.. の最後のピリオッドは一つでよい。理くつでは二つ必要なはずであるが、文尾の単語にピリオッドがついていれば、それで文のピリオッドも兼ねさせる。

名古屋 S 氏: 「～している」という表現をすべて進行形にするくせがある。the pictures are covering nearly the whole area / are...showing well the distribution の進行形はいずれも不可。こういう恒常的なものを表わすには進行形にする必要がない。

なお名詞の Countable, Uncountable を示した辞書とはどれかとの質問があつた。それは岩崎・小稲編「新英和中辞典」(研究社)である。英々辞書では Hornby et al., "Advanced Learner's Dictionary of Current English" (開拓社)がある。

次回和文英訳課題(締切10月25日)

大気の運動を力学の方程式に表わし、それを解くことによって将来の状態を計算から知ろうとするところは、かなり以前からあつた。理論の発展、高層観測の増強整備、計算機械の発達の大条件が、どうやら満たされるようになった戦後は、このところみが相当程度の結果をうるようになった。これが数値予報である。この方法で予報をすれば、総観解析にもとづく判断よりも、個人的要素が少ないので、より客観的に予報の結果を出すことができる。(「玉川百科大辞典、天文・気象編」)